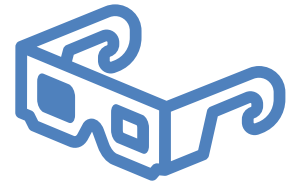


人間理解講座～哲学対話～

人間理解とは？



国際教養を支える「三本柱」の一つ

哲学対話とは？



みんなで問い、話し、考える時間



私たちは、東京芸芸大学附属国際中等教育学校が行う、国際教養の一貫である「人間理解講座」、特に2年次に行なった「哲学対話」について説明する。国際教養という私たちの学びの軸、それを構成する3つの観点のうちの1つが人間理解である。人間理解は社会を支える一員として、学校・地域・国・世界に生きる人々の生き方や社会の在り方について考え、他者を思いやる心を身につける、という学問に対する私たち生徒が現代の事象を捉える1つの視点だ。また、人間理解は、国際教養の3つの観点の中でも特に「人との関係性」を大切にすることも重要である。

私たちが2年次に行なった「哲学対話」。これは「人が生きるなかで出会う様々な問いを、人と言葉を交わしながら、ゆっくり、じっくり考えること」で、自分自身や世界の見方を深く豊かにすることである。今回の人間理解講座の一環としての哲学対話は、私たちの学生という立場ならではの視点で、自分たちの疑問に思ったことや、他者との対話を通して理解したいと思ったテーマなどを、先生の力を一切借りずに、自分自身の世界観や見方を広げることを試みた。まずは小グループ、そこから1クラスほどの人数での対話をし、それぞれのグループのテーマで議論を深めました。また、以下のような注意点とルールを踏まえた上で哲学対話を行なった。

哲学対話を行う上での注意

- 何かを決めたり、結論を出したりはしない **≠会議**
- 相手を打ち負かしたりはしない **≠ディベート**
- 相手の意見を聞くだけ（みんな違ってみんないい）では終わらない **≠意見交換**
- ただわいわい楽しむだけではない **≠おしゃべり**

哲学対話のルール

- 一つ、他の人の話をよく聞く
- 二つ、馬鹿にしたり、茶化したりしない
- 三つ、どんなことでも自由に話して良い
- 四つ、他人の意見に合わせたり、無理に話したりする必要はない
- 五つ、沈黙を恐れない
- 六つ、簡単に結論づけず、思考し続けよう
- 七つ、自分の考えが変わることを楽しもう

実際の活動



人間理解講座 1 哲学対話を知ろう

哲学対話の人間理解講座は2023年4月18日と4月25日の2回実施された。「人間理解講座 1」として18日に実施された初回の哲学対話は**哲学対話とは何か理解すること**を強く意識しながら担当の先生方の指示に従って自分たちの哲学対話を開始した。初回であるため、哲学対話の実施内容に関する説明や哲学対話を行う上でのルールや注意点を確認した。そして、まずは近くに座る6人ほどの小グループでの哲学対話することとなったが、いく少人数とはいえ、初回で対話の体裁を保った議論を行うのは難しい。そのため、**コミュニティボール**というアイテムを用いた。コミュニティボールは簡単に述べるならば**その議論の中での発言権をボールとして示したもので、ボールを持っている人のみが発言を許される。**（詳細な使用方法は以下の図参照）このコミュニティボールを用いて対話を円滑に行いながら、小グループで「**幸せってなに？**」という問いに自分なりの考え方を示しながら対話をした。次に少人数での対話ではなく、クラスと同程度の規模のグループでの対話を行なった。今回もコミュニティボールを用いた。テーマは「**a. 自由っていいこと？**」「**b. 善悪はなんで存在するの？**」「**c. 女子力ってなに？**」という3つの選択問の中から1つそれぞれのグループで選択した。また、大人数での話し合いとなるため、円の形になって対話を行なった。人数が大幅に増加したため、少々緊張や発言しづらさを感じながらも、沈黙を恐れず、問いに対する自分なりの考え方を共有し合った。また、一定数の人に発言権が偏ってしまうのを防ぐために、コミュニティボールを用いてより多様な人からの意見を取り入れようと動く生徒も見られた。最終的に対話を終えた後に私たち生徒は振り返りシートにその日の対話の振り返りを行なった。そして、それぞれの振り返りシートに、初めての哲学対話を体験し、他者からの考え方を知りたい問いなどを次回の対話のために記入した。

コミュニティボールの使い方

- ボールを持っている人が話す人。
- 話したい人は手を挙げて、ボールをもらって話す。
- たくさん手が挙がっていたら、まだあまり話していない人に優先的にボールを回す。
- 誰も手を挙げていなかったら、少し待つか、話を聞いてみたい人に渡す。
- ボールが回ってきても、話したくないときはパスしてもOK。

人間理解講座 2 哲学対話を活かそう

哲学対話の第2回である「人間理解講座 2」は4月25日に実施された。前回の「人間理解講座 1」が初めての哲学対話であったため、前回こそ少々オリエンテーション味の強い講座であったが、今回は前回の振り返りシートに記入された問いを元に本格的な哲学対話の議論を行なった。その前に、先生から前回同様哲学対話のルールや注意点、コミュニティボールの使用方法などの説明をざっと触れた後、私たちにより多くの人数に**哲学対話で発言してほしい**ということを伝えられた。つまり、今回の講座は生徒にとって**哲学対話の機会を自分なりに活かせるようにすることが目的であった**と言える。前回同様に1クラス程度の人数のグループを形成した後、グループ内で話し合っ、哲学対話のテーマを決定した。具体例を挙げると、「**成績が悪いと頭が悪いの？**」や「**『優しさ』とは何か**」などが哲学対話として話し合われた。その後振り返りシートに今回の哲学対話の人間理解講座全体の振り返りを行なった。

活動を通じた学び

1 自分の価値観が広がる

「人が生きるなかで出会う様々な問いを、人と言葉を交わしながら、ゆっくり、じっくり考えること」で、自分自身や世界の見方を深く豊かにすること」がテーマの哲学対話。普段話すことも、深く考えることもない哲学的なテーマを自分なりに分析、発言することで、今まで自分では気づけなかった自分の考え方に気づくことができた。また、人との対話を通して、自分にはなかった考え方を学ぶことができ、「**自分の思考回路**」+「**仲間の思考回路**」という価値観の分析、推敲をすることができた。自分の考え方に気づくことができる上に、人の考え方も吸収してさらに考え抜かれた自分の価値観を形成することができる機会となった。

2 仲間の価値観を理解する機会になる

普段仲が良くても、哲学的な深い会話をしない友達。普段あまり話さない友達、普段哲学対話のような議題について話し合わないような相手でも、哲学対話の時間を通してその人の考え方や価値観に触れることができる。普段自分から発言しない人も、コミュニティボールを通して会話を誘発することにより、自分の考え方について積極的に話すことにつながる。実際、「**優しさとは何か**」という議題に対し、今までほとんど話したことなかった友達から、自分の物事の見方を大きく変えるような発言を聞いたこともあった。哲学対話という人との対話を通して自分の見方を豊かにする授業にもかかわらず、**他人に対する考え方や見方の理解を深める**ことができた。

3 教師に価値観を共有する機会になる

生徒同士だけでなく、教師に対しても自分の考えを共有する機会にもなった。哲学対話をするにあたり、1グループにつき1人教師がつき、生徒たちの会話を聞いていた。哲学対話振り返りシートも先生によって目を通し、コメントが書かれていた。普段自分の考え方について教師と深く話し合う機会が少ないが、哲学対話では教師の観察の元話し合う。教師目線でも生徒の価値観を理解する機会になっただろう。また、振り返りシートの提出によって、生徒個人の価値観や哲学対話の感想を直に感じることができる。自分の価値観の拡大、仲間との共有に加え、**教師に自分の考え方を共有するため**にも必要だと言える。また、生徒たちにとっても、自分の価値観を相手に説明する上で、どのようにしたらより伝わりやすいか考えて行動できる。

「自分」+「仲間」+「教師」この3つの観点がそろって、哲学対話により学びのあるものとなっているのだろう。

ATLとのつながり

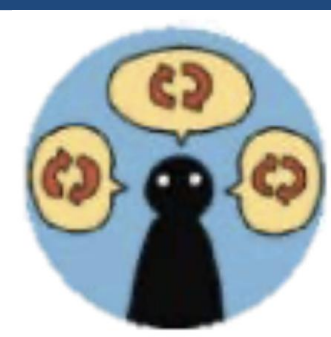
ATLとは各教科での学習目標へ到達するためのツール



情動スキル

自分の気持ちをどのように管理することができるか？

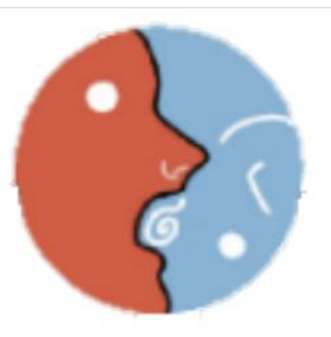
哲学対話の最大の敵、それは沈黙と言えるであろう。一度沈黙が訪れてしまうと、その中にある気まずさ、かといって迂闊に口を開けない見えない力を感じてしまう。そのような事態になってしまうと、哲学対話という折角の価値観交流の機会を失うことになってしまう。そんな大損失を避けるためにも、私たちは対話に粘り強く臨み、沈黙による圧力や気まずさを我慢して、自分を律するATLスキル、**情動スキル**を意識して哲学対話をより実りあるものになるよう動いた。



振り返りスキル

自分はどのようにして効果的に振り返りができるのか？

2回開催された哲学対話講座の終わりには必ず行なっていた振り返り。この振り返りにおいても生徒はATLスキルの**振り返りスキル**を用いて、哲学対話での収穫を振り返っている。対話後に自分の活動を振り返る時間を得ることで**自分自身の成長**を観察したり、現時点での自分たちの理解状況などを整理できた。そのため、私たちは哲学対話講座からより深い学びを得ることができた。また、今後どのようにすればより効果的な哲学対話を行えるかなど、**改善点**を提案する点でも、哲学対話の活動での学びに大きく寄与している。



コミュニケーションスキル

相互作用を通して自分はどのように意思疎通をはかることができるのか？

今回の哲学対話では個人的な意見や信念を述べる機会が数多くあった。その際注意しなければいけなかったのは、相手の傷つけない話し方をするということであった。強い口調はどこか暴力的な印象があり、相手を傷つけてしまう可能性がある。それは、哲学対話において一番もったいない、「意見を出さない」という行為に繋がってしまう。そのようなことを避けるために、生徒はATLスキルの一つ、**コミュニケーションスキル**を用いて他者を傷つせず、最大限の情報共有を行えるように意識した。



転移スキル

自分はどのようにしてスキルや知識を学習分野や教科の枠をこえて転移することができるか？

私たち自身の価値観について、テーマに沿って他者と語り合う哲学対話からは、普段の学校生活や日常生活で活かせるものが多くある。これらの学びを私たちはATLスキルの1つである、**転移スキル**を用いて私たち自身に転用している。例えば、授業内で履修した内容を、哲学対話を通して得た新しい捉え方を通してみれば、別の解釈が可能になるかもしれない。また、新しく得た視点を用いて、独自に新たな視点を得ることも可能である。つまり、転移スキルは私たちの**学びを結びつける**ことに大きく貢献しているのだ。